
1

車を運転する前に

各部の開閉

キー	34
ドアの施錠・解錠	34
パワーウィンドー	36
ボンネット	36
トランク	37
エンジンルーム	38
燃料補給口	41

各部の調節

シート	42
後写鏡	43
シートベルト	44

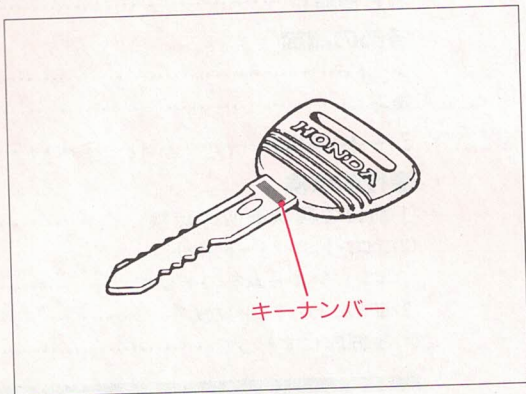
運行前点検

①前日の異状箇所の点検	47
②フロントコンパートメント、 エンジンルームをのぞいて	47
③車のまわりを回りながら	50
④運転席にすわって	53

各部の開閉

キー

キーは、エンジン始動、停止のほか、ドアやドキュメントボックスの施錠・解錠、トランクの解錠に使えます。



アドバイス

- キーナンバーを控えておいてください。万一、キーを紛失したときは、ナンバーをホンダブリモ店へご連絡いただければ、購入することができます。

ドアの施錠・解錠



アドバイス

- 車から離れるときは、エンジンを止め、ドアを必ず施錠してください。また、車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。

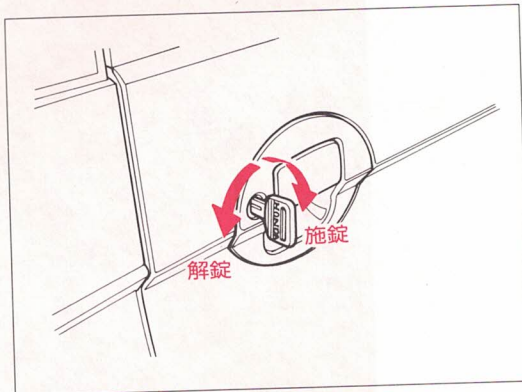


注意

- ドアは確実に閉めてください。半ドアでは、走行中に開くおそれがあり危険です。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確かめてください。不用意に開けると、後続車などにぶつかるおそれがあり危険です。

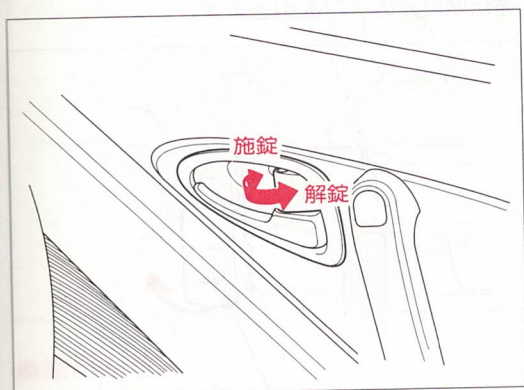
●車外から行う場合

キーを確実に差し込んで回します。



●車内から行う場合

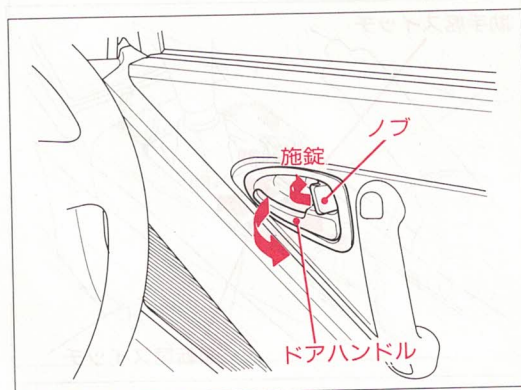
ノブを矢印の方向に動かすことにより、施錠(解錠)できます。



●キーを使わないで施錠する場合

運転席ドア

ドアハンドルを引いたままノブを施錠の方向に動かして、ドアを閉めれば施錠できます。



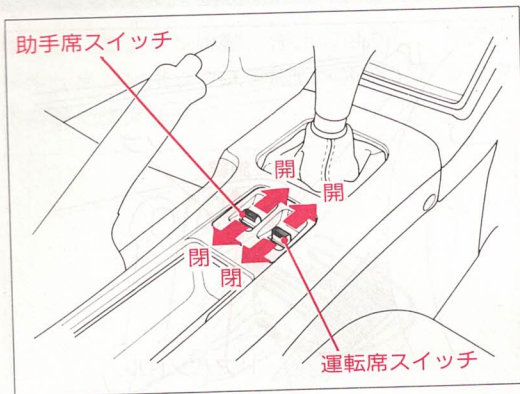
●キーを車内に置き忘れないようにしてください。

助手席ドア

ノブを施錠の方向に動かして閉めると施錠できます。

パワーウィンドー

エンジンスイッチが“ON” のとき使えます。
スイッチを操作している間、ウィンドーが作動
します。



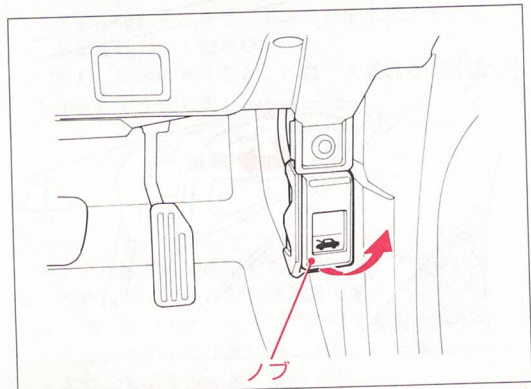
- パワーウィンドーを閉めるときは、手やくびをはさまないように注意してください。特にお子さまには気をつけましょう。
- パワーウィンドースイッチの上には物などを置かないでください。

■ パワーウィンドー ■ ボンネット

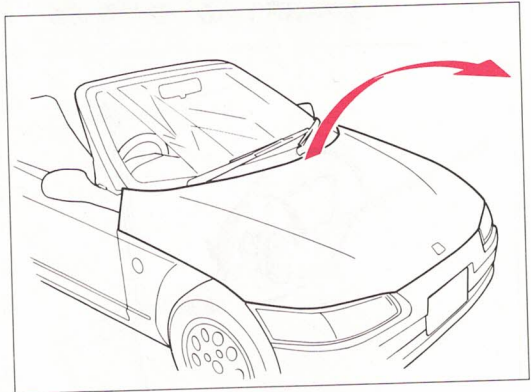
ボンネット

● 開けかた

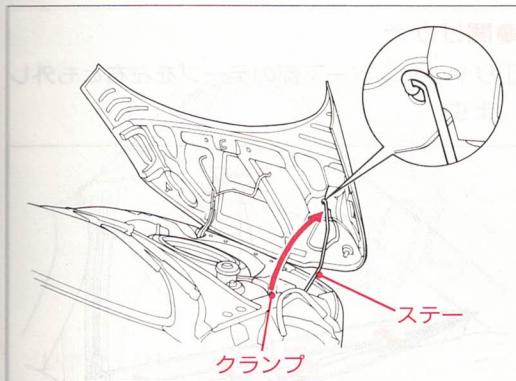
運転席足元のノブを引きます。



ボンネット後部が少し浮き上がるので、そのまま持ち上げます。



必ずステーを確実にかけ、固定します。



●閉めかた

ステーを外し、クランプに納めます。
ボンネットを静かに下げ、手を離します。
ボンネットが完全に閉まっていることを確認します。

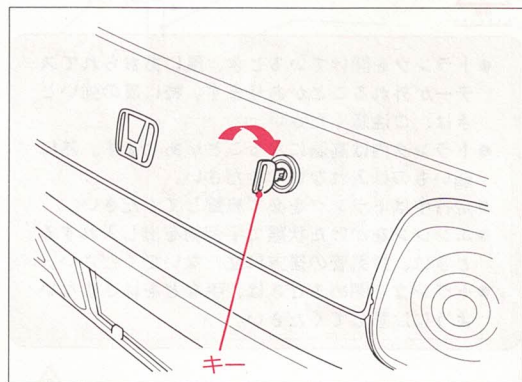


- ボンネットを開けているとき、風にあおられてステーが外れることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。
- ボンネットが完全に閉まっていないままで走行すると開くおそれがあり非常に危険です。走行前に必ず確認してください。

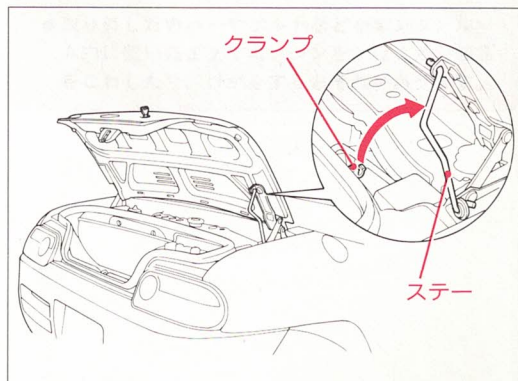
トランク

●解錠

キーを確実に差し込んで回します。



必ずステーを確実にかけ、固定します。



車を運転する前に

●施錠

ステーを外し、クランプに納めます。
静かに下げ、手を離せば施錠できます。

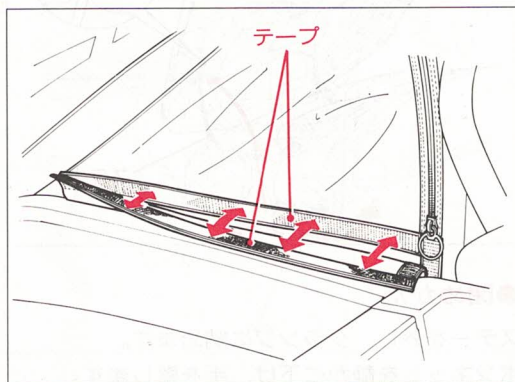


- トランクを開けているとき、風にあおられてステーが外れることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- トランク内は高温になることがあります。熱に弱いものは入れないでください。
- 走行中はトランクを必ず施錠してください。
- エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないでください。
- トランクを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。

エンジンルーム

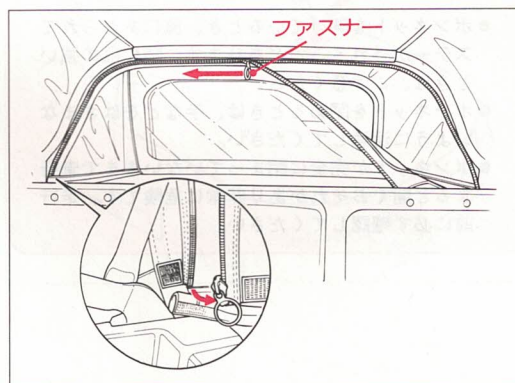
●開けかた

①リヤウィンドー下部のテープを左右とも外します。

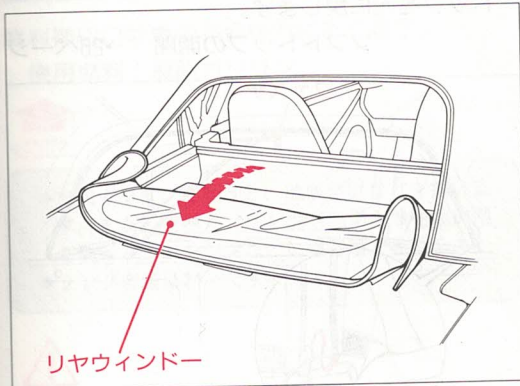


②ソフトトップを少し開け、ソフトトップクロスにたるみを持たせて、リヤウィンドーのファスナーを外します。

ソフトトップの開閉 →26ページ

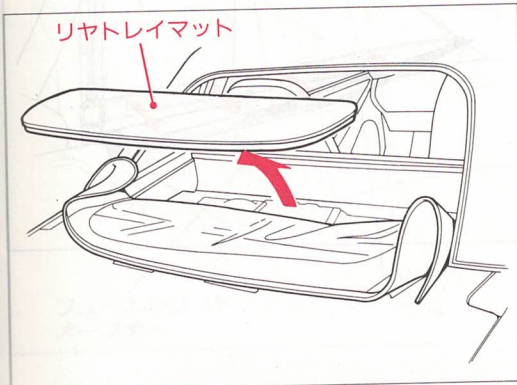


③ リヤウィンドーをトランク側へ引き出します。

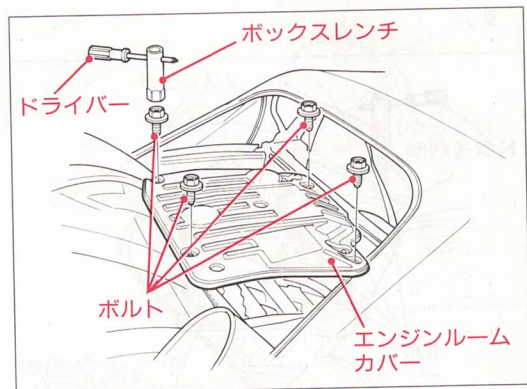


- リヤウィンドーやトランク上の汚れ(砂粒、異物など)を取り除いてください。汚れているとリヤウィンドーを傷つけたりする場合があります。

④ リヤトレイからリヤトレイマットを取り外します。



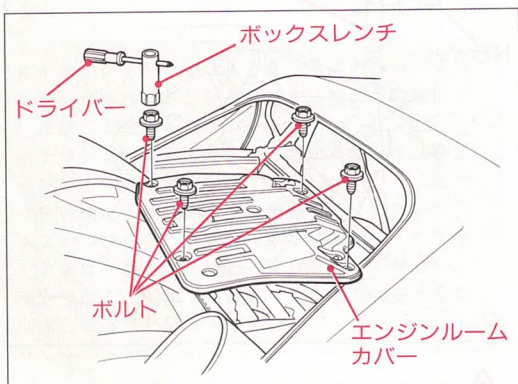
⑤ ボックスレンチを使って締付けボルト 4本をゆるめて外し、エンジンルームカバーを取り外します。



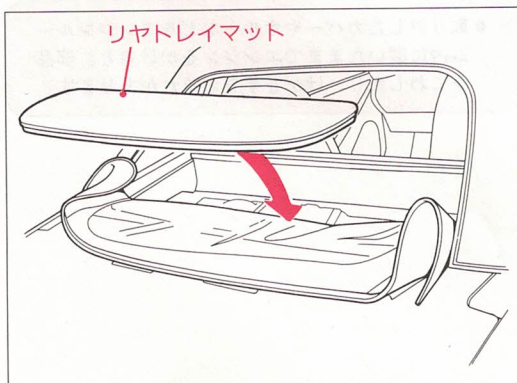
- 取り外したカバーやボルトなどをエンジンルーム内に置いたままでエンジンをかけると、部品をこわしたり、けがをするおそれがあります。

●閉めかた

①エンジンルームカバーを取り付け、ボックスレンチを使ってボルト 4 本で確実に固定します。

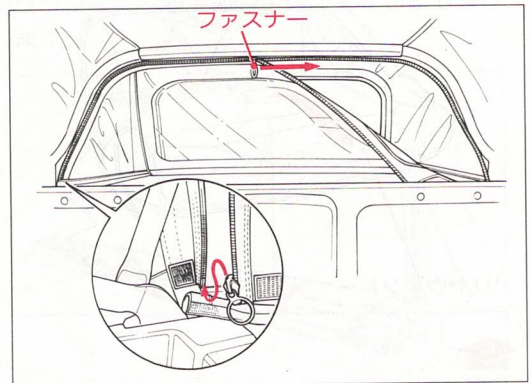


②リヤトレイマットをリヤトレイに戻します。

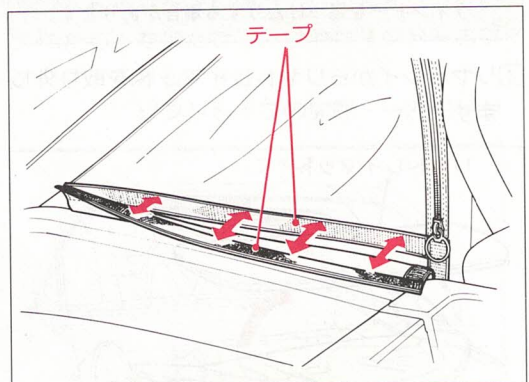


③リヤウィンドーのファスナーを閉め、ソフトトップを元に戻します。

ソフトトップの開閉 →26ページ



④リヤウィンドー下部のテープを左右とも取り付けます。



燃料補給口

燃料補給口は車の右側後方にあります。

使用燃料：無鉛ガソリン



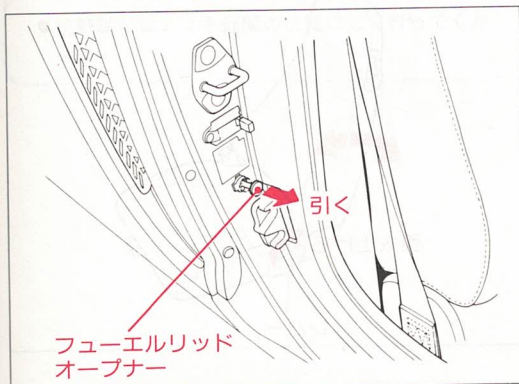
- 有鉛ガソリンを使うと、触媒装置などを損います。また、粗悪ガソリンや不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。
- タンク容量は24ℓです。



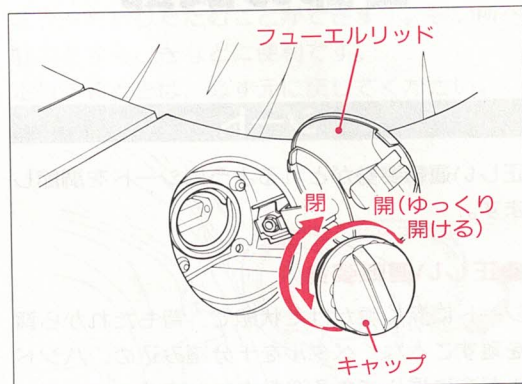
- 燃料補給時は火気厳禁です。エンジンは必ず止めてください。

●フューエルリッドの開けかた

運転席ドアを開け、フューエルリッドオープナーを引くとリッドが開きます。



●キャップの開閉



●閉めるとき

キャップを「カチッ」という音が2回以上するまで締め付けてから、フューエルリッドを手で押さえつければ閉まります。

各部の調節

シート

正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。

●正しい運転姿勢

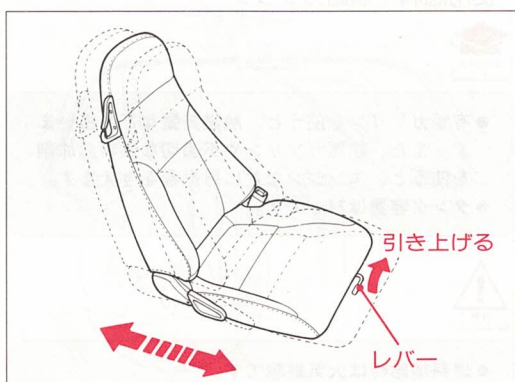
シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分踏み込め、ハンドルが楽に操作できる姿勢をいいます。



- シート各部の調節は走行する前に行ってください。走行中は、シートが急に動いて危険です。
- 調節後は、固定されていることを必ず確認してください。
- シートの背もたれは、必要以上に倒さないでください。万一のとき、シートベルトの下に滑り込んだりして、シートベルト本来の機能をはたさず危険です。
- シートの後部に、お子さまを乗せたりしないでください。

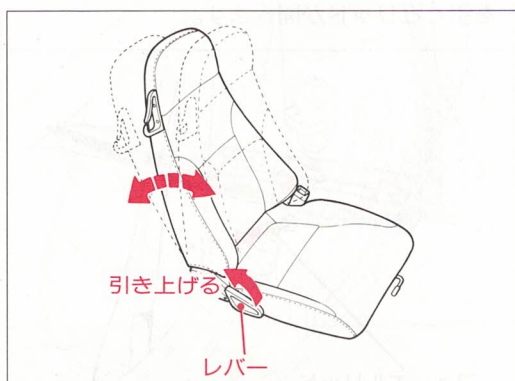
●位置の調節

レバーを引き上げながら、前後にシートを動かして調節します。



●背もたれの調節(運転席のみ)

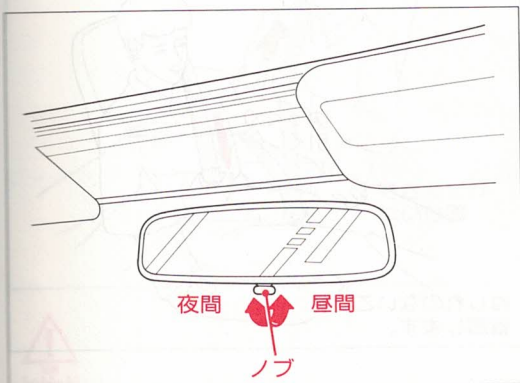
レバーを引き上げながら、背もたれの角度を調節します。



後写鏡

●防眩式室内後写鏡

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいときにノブを夜間の位置に切り換えるとライトの反射が弱くなります。

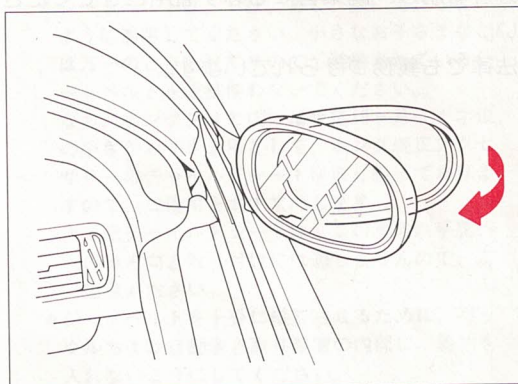


- 視野調節はノブを昼間の位置にして行ってください。

●可倒式ドアミラー

ドアミラー装備車

ミラーを折りたたむことができます。狭い所へ駐車をするときなどに便利です。走行するときは、必ず元に戻してください。



- ミラーを倒したまま走行しないでください。

シートベルト

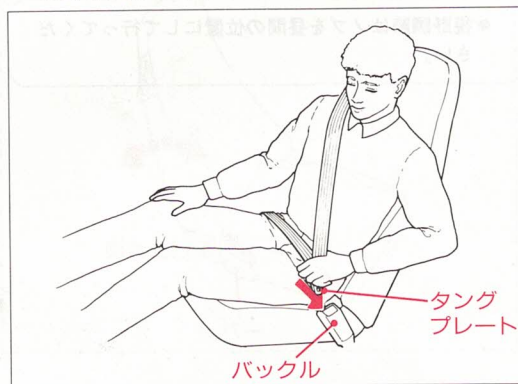
シートベルトは、車を運転するまえに運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。
法律でも義務づけられています。

●シートベルトの着用

- ①正しい運転姿勢(→42ページ)でシートにすわります。
- ②タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。



- ③ベルトにねじれがないようにし、タングプレートバックルの中へ"カチツ"と音がするまで差し込みます。



- ④ベルトがねじれたり、引っかかったりしていないかを確認します。



●ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、局部的に強い力を受けて危険です。
ねじれないように使ってください。

⑤ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるとように引き、たるみがないように身体に密着させます。



- ベルト締め付け力を丈夫な腰骨の部分に拡散するため、ベルトは上腹部を避け腰骨のできるだけ低い位置にぴったり装着してください。

⑥外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。



シートベルト

- ベルトは一人用です。二人以上で一本のベルトを使わないでください。
- シートベルトは、くび、あご、顔に当たらないように着用してください。小さなお子さまなどは万一のとき危険ですので、装備されているシートベルトを直接使わないでください。なお、ホンダプリモ店では生後10ヶ月～4才位の小さなお子さま用として、ホンダ純正アクセサリーのチャイルドシートを取り扱っておりますので、ご使用をおすすめします。
*上記チャイルドシートは、この車の助手席への後ろ向き取り付けには適しませんので、ご注意ください。
- シートベルトを十分に機能させるために、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に、異物を入れないようにしてください。
- ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に、布をひたしてふき取り乾かしてください。薬剤を使ったり、漂白や染色は絶対しないでください。ベルトを弱めます。
- 着用した状態で万一、事故に合った場合は、ベルト一式を交換してください。
- 妊娠中の女性や疾患のあるかたのベルトの着用は、万一のとき腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがありますので、医師にご相談ください。

運行前点検

運行前点検は、自動車を使う人が、1日1回、運転する前に実施するよう法令により義務づけられています。

この点検は、フロントコンパートメントやエンジンルームをのぞいたり、車のまわりを回ったり、また、運転席にすわって車の状態をみることによって容易に出来るものです。運行前点検を確実にを行うためには一定の順序で行うことが効果的です。

点検作業は、車を水平な場所に置いて行ってください。

右に点検順序を示します。



- 異常を知らずに使用し続けると、事故や故障の原因になります。必ず運行前点検を行ってください。
- 異常が認められた場合は必ずホンダプリモ店で点検を行ってください。

運行前点検の順序

①前日の異状箇所の点検 →47ページ

②フロントコンパートメント、エンジンルームをのぞいて →47ページ

ブレーキ液量の点検

※冷却装置の点検

※エンジンオイル量の点検

※発電機ベルトの点検

③車のまわりを回りながら →50ページ

反射器、ナンバープレートの点検

灯火装置、方向指示器の点検

タイヤの点検

(※溝の深さの点検)

④運転席にすわって →53ページ

後写鏡の点検

駐車ブレーキの点検

ブレーキの点検

※燃料の量の点検

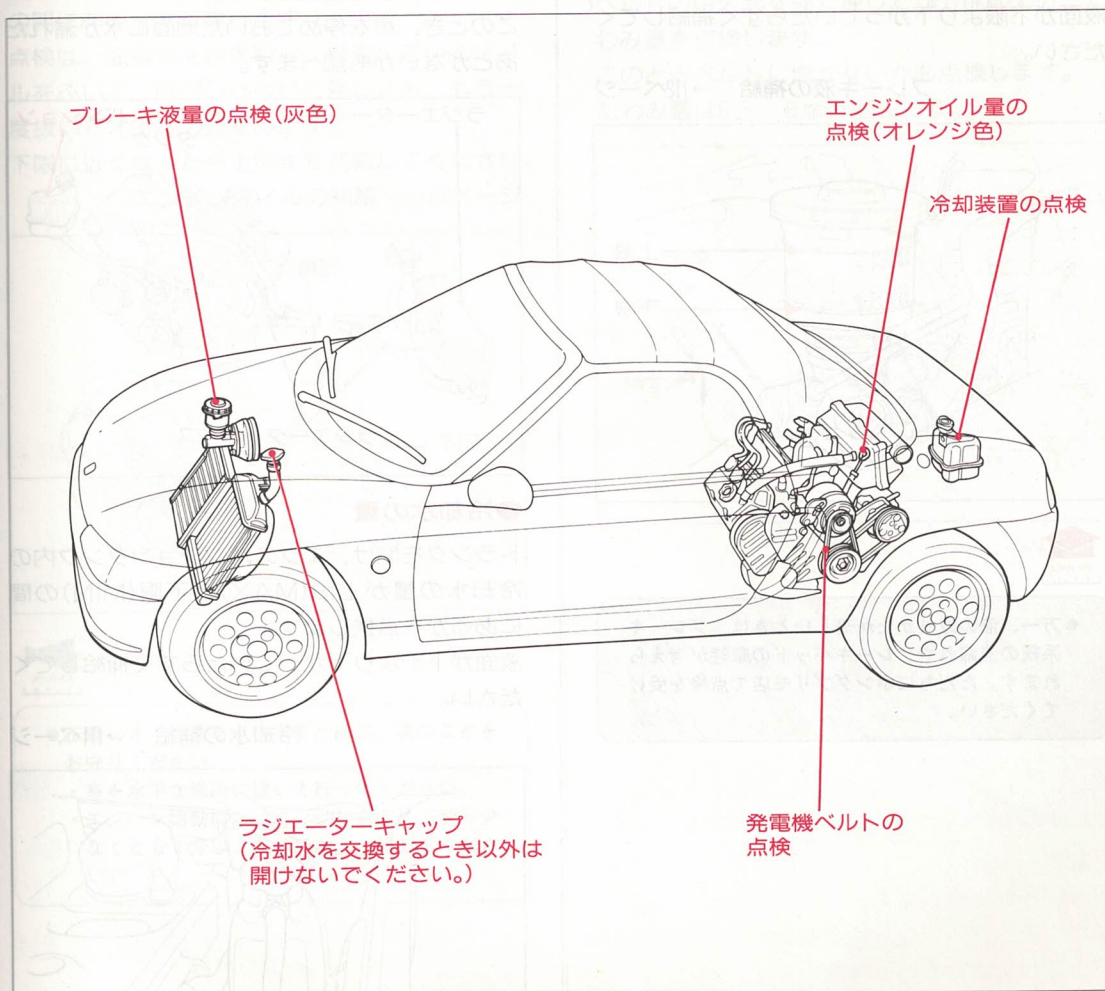
※印の点検項目は、80km/h以上で走行できる高速道路などを走行する予定がない場合には、行わなくてもよい項目です。



①前日の異状箇所の点検

運行に支障がないかを点検します。

②フロントコンパートメント、エンジンルームをのぞいて

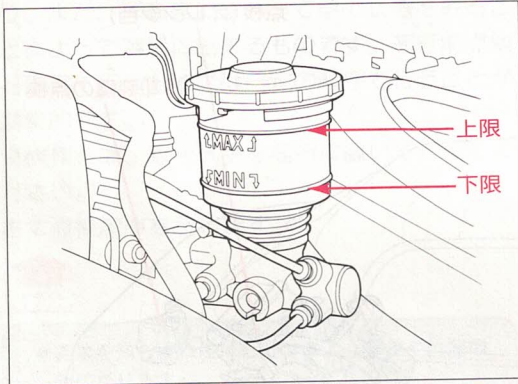


ブレーキ液量の点検

ボンネットを開け、リザーバタンクの液量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを点検します。

液面が下限より下がっていたらすぐ補給してください。

ブレーキ液の補給 →112ページ



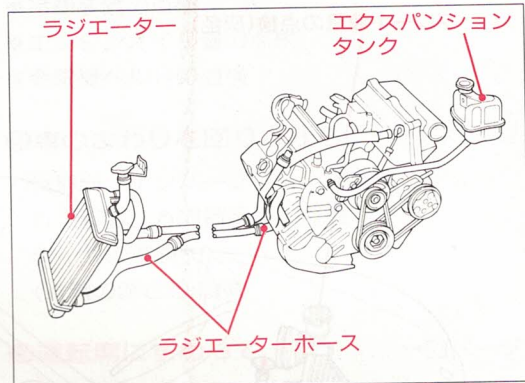
- 万一、液の減りかたが著しいときは、ブレーキシステムの液漏れやブレーキパッドの摩耗が考えられます。ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。

冷却装置の点検

●水漏れ

ラジエーター、ラジエーターホースなどから水漏れがないかを点検します。

このとき、車を停めておいた地面に水が漏れたあとがないかも調べます。

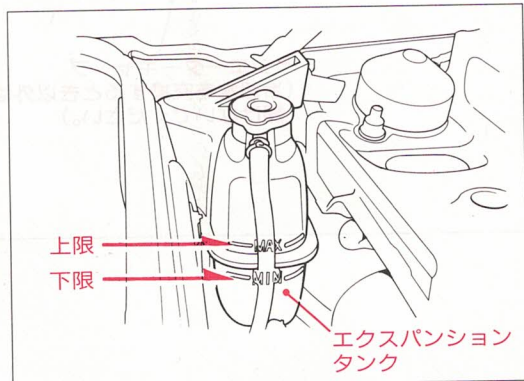


●冷却水の量

トランクを開け、エキスパンションタンク内の冷却水の量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを点検します。

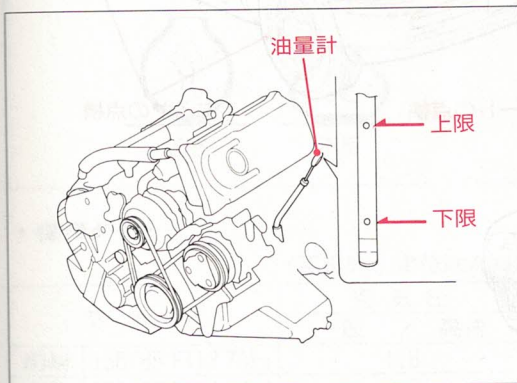
液面が下限より下がっていたらすぐ補給してください。

冷却水の補給 →111ページ



エンジンオイル量の点検

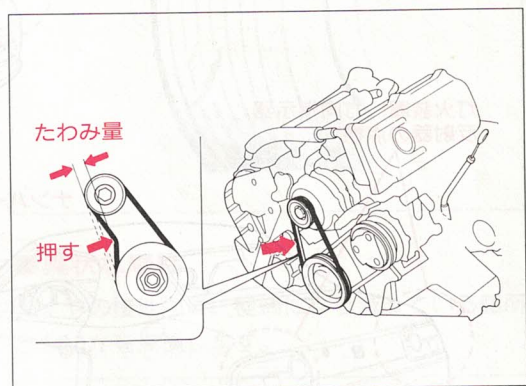
エンジン始動前に行います。
 トランクを開け、エンジンオイルの量が、油量計(オイルレベルゲージ)の目盛りの上限と下限の間にあるかを点検します。
 点検は、油量計を抜き取り、付着しているオイルをふいて、再びいっばいに差し込み、もう一度抜いてオイルの量をみます。
 下限に近くなったら上限まで補給してください。
 エンジンオイルの補給 →110ページ



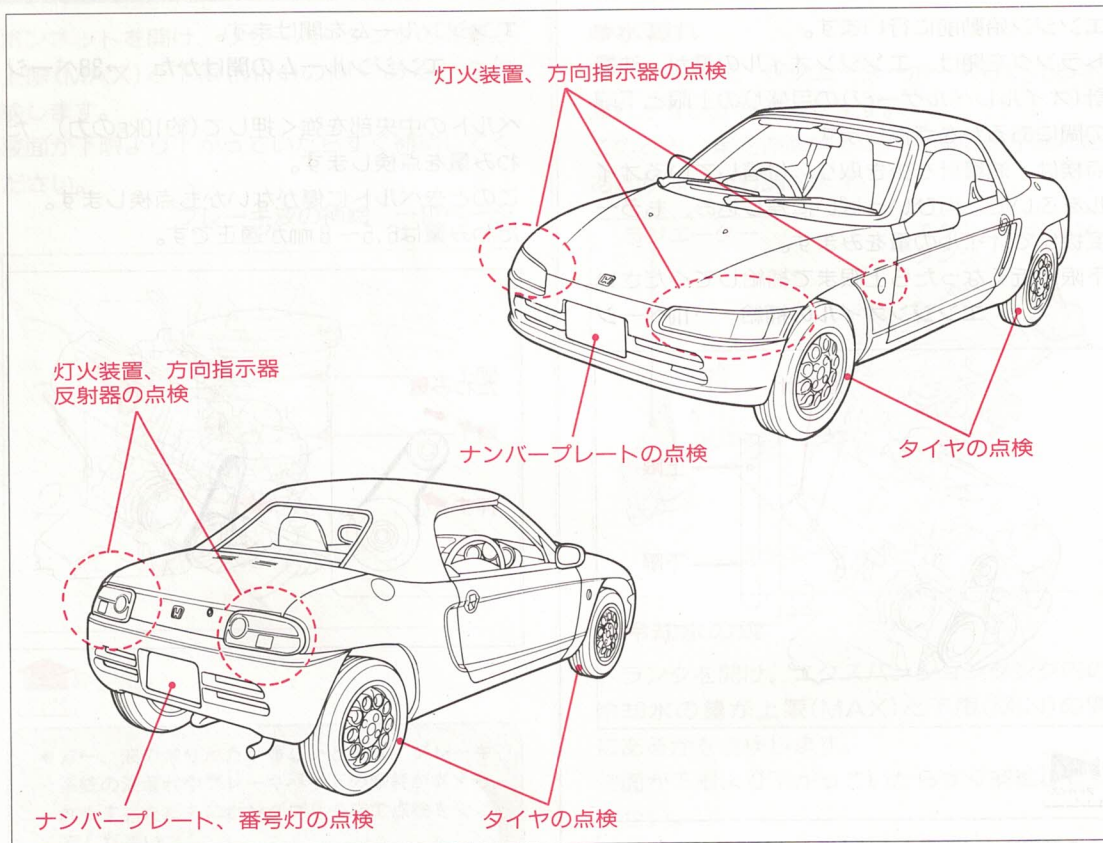
- 正確にオイル量を点検するために、次のことをお守りください。
 - ・車を水平な場所に置いて行ってください。
 - ・エンジン始動前か、エンジンを止めてから少なくとも3分以上たってから点検してください。

発電機ベルトの点検

エンジンルームを開けます。
 エンジンルームの開けかた →38ページ
 ベルトの中央部を強く押して(約10kgの力)、たわみ量を点検します。
 このときベルトに傷がないかも点検します。
 たわみ量は6.5~8mmが適正です。



④車のまわりを回りながら



反射器、ナンバープレートの点検

反射器、ナンバープレートに著しい汚れや損傷がないかを点検します。
また、ナンバープレートが確実に取り付けられているかも手でさわって調べます。

灯火装置、方向指示器の点検

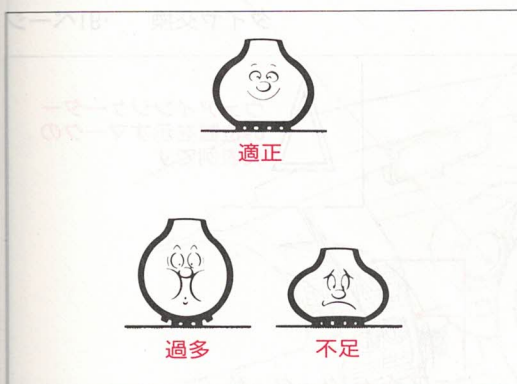
エンジンスイッチを“ON”にし、
・前照灯・車幅灯・尾灯
・番号灯・後退灯・方向指示器
などを作動させて、点灯または点滅するかを点検します。
このとき、レンズに汚れや損傷がないかも調べます。
ブレーキペダルを軽く繰り返し踏み、制動灯が点灯するかを点検します。
点検は壁や鏡を利用するか、他の人に見てもらおうなどして確認します。

■反射器、ナンバープレートの点検 ■灯火装置、方向指示器の点検

タイヤの点検

●空気圧

タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。



・標準タイヤ

(空車時：単位kg/cm²)

サイズ	空気圧	
	一般	高速
前輪 155/65 R13 73H	1.8	
後輪 165/60 R14 74H	2.0	

・応急用スペアタイヤ

(空車時：単位kg/cm²)

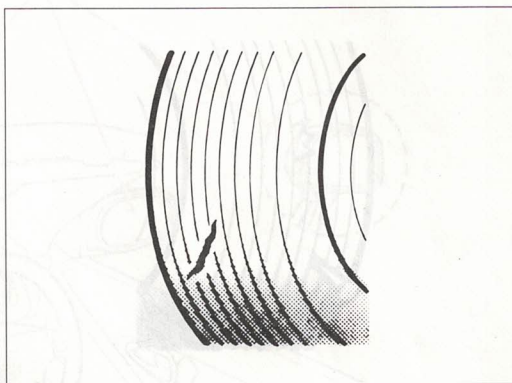
サイズ	空気圧	
	一般	高速
T115/70 D14	4.2	



●タイヤの空気圧やサイズは、運転席側ドア開口部に表示してあります。

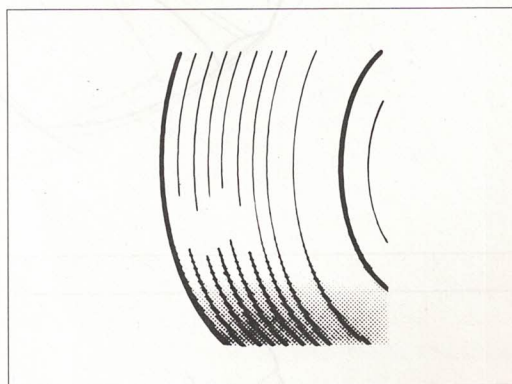
●亀裂、損傷

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。



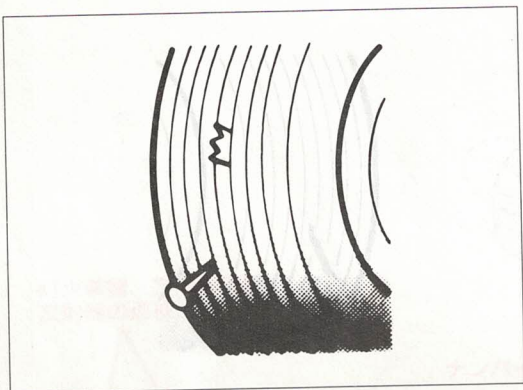
●異状な摩耗

タイヤの接地面に、極端にすり減っている個所がないかを点検します。



●異物のかみ込み

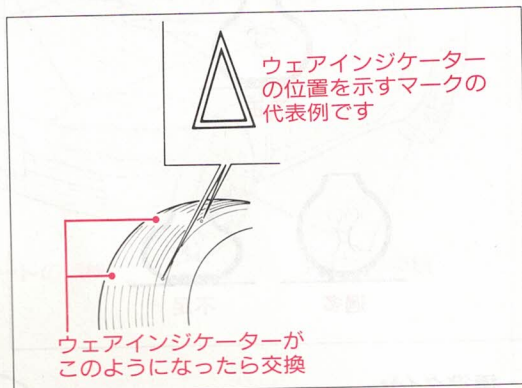
タイヤに釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。



●タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さに不足がないかをウェアインジケーター(摩耗限度表示)により点検します。ウェアインジケーターが表われたらタイヤを交換してください。

タイヤ交換 →91ページ

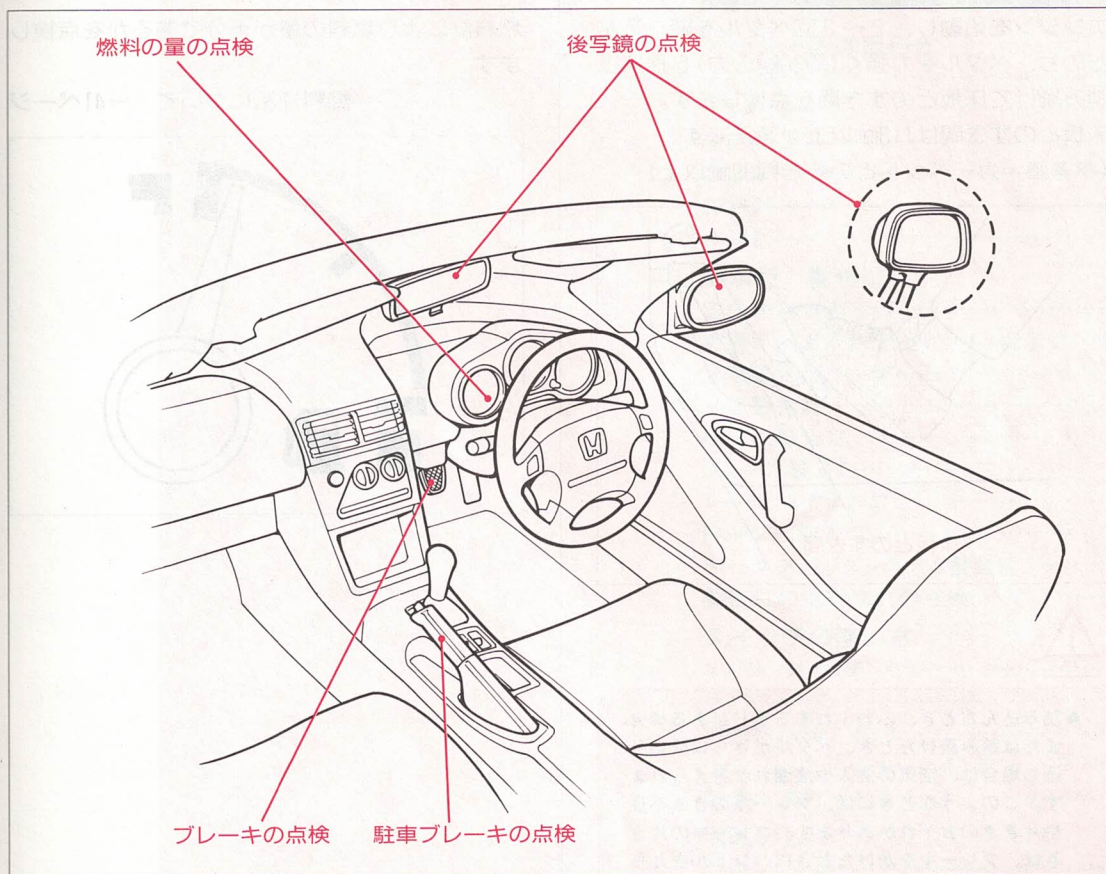


●ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。



●タイヤの摩耗、損傷、石など異物のかみ込みおよび指定外のタイヤ空気圧は、タイヤの寿命や乗り心地、操縦性を損ないます。

④運転席にすわって

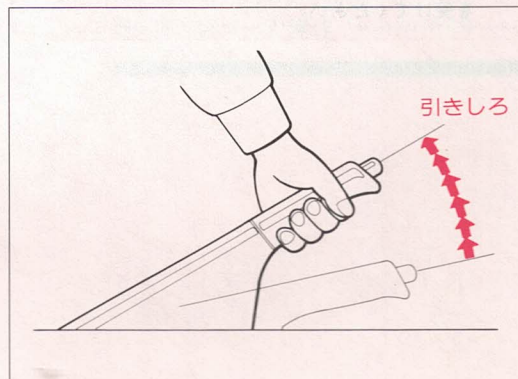


後写鏡の点検

運転席に正しくすわって、後方や側方の状況が十分に確認できる位置に、後写鏡が調整されているかを点検します。

駐車ブレーキの点検

ブレーキをいっばいに戻した状態からゆっくり引き上げて(約20kgの力)、5～9回の引っかかり音でレバーがロックするかを点検します。



ブレーキの点検

エンジンを始動し、2～3回ペダルを踏み込んだのち、ペダルを力強く(約20kgの力)5秒以上踏み続けて床板とのすき間を点検します。床板とのすき間は113mm以上が適正です。(参考値・カーペットとのすき間99mm以上)



- 踏み込んだとき、ふわふわする感じがある場合、または踏み続けたとき、ペダルがさらにはいり込む場合は、空気の混入や液漏れが考えられます。このようなときには、ブレーキのきき不良や片ざきのおそれがあります。ブレーキの片ざきは、ブレーキをかけたときにハンドルをとられて危険です。ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。



燃料の量の点検

燃料計により燃料の量が十分であることを点検します。

燃料補給について →41ページ

